

平成30年度 東北活性研フォーラム

「東北 Society 5.0を考える」シリーズ (第2回) 開催報告

平成30年2月に仙台市で開催した東北活性研フォーラム(第1回)では、「第4次産業革命」を主導する先端技術開発動向を紹介し、こうしたイノベーションの進展によって地域の経済や社会がどのように変容していくのかについて考え、東北地域の輝かしい未来創出のあり方を探る機会を提供しました。

本フォーラム(第2回)では、地域が抱える課題と各大学がもつ研究成果を融合し新たな産業を創出する取組みを紹介すると共に、東北を舞台にいち早くIoT、AI等の先端技術を取入れたユニークな取組み事例を紹介することによって、社会課題を解決する新ビジネス開発の動きを活性化することを狙いとして開催し、約120名の聴講者の参加があった。

開催概要

日時 平成30年9月13日(木) 14:00～16:30

会場 ホテルレオパレス仙台(地下1階)

【プログラム】

1. 開会・主催者代表挨拶

公益財団法人東北活性化研究センター 会長 海輪 誠

2. 基調講演

「東北地域の活性化に向けた取組み」

山形大学 国際事業化研究センター センター長 小野寺 忠司 氏

3. 事例紹介

- ① 東北大学 情報知能システム研究センター (IIS)の産学官連携による取組み事例
東北大学大学院工学研究科 情報知能システム研究センター 特任教授 鹿野 満 氏
東杜シーテック株式会社 代表取締役 本田 光正 氏
匠ソリューションズ株式会社 エキスパートエンジニア 浦本 久伸 氏
- ② スリーアイズ事業紹介と、人工知能の事業活用のポイント
株式会社スリーアイズ 代表取締役 牧之内 隆大 氏
- ③ Society 5.0に向けたIoT 共創基盤の必要性和真の官民協働に向けて
仙台市 経済局 産業政策部 産業振興課長(当時) 白岩 靖史 氏

4. 閉会挨拶

国立大学法人東北大学 産学連携機構 地域イノベーション推進部長 上島 敦 氏

<主催>公益財団法人東北活性化研究センター、国立大学法人東北大学、国立大学法人山形大学

<後援>東北経済産業局、(独)中小企業基盤整備機構東北本部、(国研)産業技術総合研究所東北センター、仙台市、(一社)東北経済連合会、(株)日本政策投資銀行東北支店、(公財)みやぎ産業振興機構、(一社)みやぎ工業会、(公財)仙台市産業振興事業団、仙台商工会議所、山形商工会議所

開会・主催者代表挨拶

東北活性化研究センター 会長 海輪 誠

本フォーラム「東北 Society 5.0」を考えるシリーズは、IoT や AI などの先端的なデジタル技術の社会実装による新しい地域社会のあり方を探ることを趣旨で展開しています。

「Society 5.0」は世の中にまだ存在しておらず具体的な姿を思い浮かべることが難しいと思います。むしろ、新しいデジタル技術を使ってどのような社会を実現したいのか、私たち一人ひとりが理想社会を実現する強い意思を持つことが大切です。本フォーラムが先端技術の社会実装を通じて、東北が目指すべき地域社会の姿への道筋を描いていく上で、数多くの示唆を与えていただくことを期待いたします。



1. 基調講演「東北地域の活性化に向けた取組み」

国立大学法人山形大学 国際事業化研究センター センター長 小野寺 忠司 氏

山形・米沢地域をイノベーション創出の産業集積地域、シリコンバレーのような産業地域に変革させたい。そのために、スピンオフカンパニーを継続的に創出し、世界に通用する21世紀型の産業クラスターとして世界中の優秀な技術者が集まってくる地域を創り上げたいのです。そして、最終目標は東北から有望なベンチャー企業を多数生み出し、魅力的な新しい雇用を創出することです。

そのために大学がやるべき人材育成とは、自らイノベーションを起こす人材、地方創生の担い手となるローカル人材とグローバル人材、自ら行動を起こし地域に影響を与え地域を支えていく人材を育てることです。

山形大学は「EDGE-NEXT 人材育成プログラム」で起業家精神を有する人材、尖った人間を作ることに注力しています。

今、取組みを進めているのが、東北地区の大学や企業、行政が地域の垣根を越えて連携し、協働による地域産業の活性化を図ることです。そのトリガーとしてビジネスプランコンテスト「みちのくイノベーション・キャンプ」の開催を準備中です。この取組みを通じ、起業機会の創生、各大学の有望な研究シーズの発掘や社会実装の促進を図ってまいります。是非、この取組みに、多くの東北企業に参加していただきたい。



2. 事例紹介

(1) 事例1：「東北大学 情報知能システム研究センター（IIS）の産学官連携による取り組み事例」

① IIS 研究センターの産学官連携事例

東北大学大学院工学研究科 情報知能システム研究センター 特任教授 鹿野 満 氏

東北大学の情報知能システム研究センター（IIS）は、電気情報系の研究室の最先端技術を活用し、産学官連携を推進して地域社会に貢献することを目指している。

（※地域企業様との産学官連携事例について紹介された）

- ・外観検査用産業ロボットを高度化する画像処理組み込みソフトウェアの開発と事業化
- ・動的に変化する物体形状に合わせた映像投射を実現するためのスクリーン面マーカー構造形成ならびに評価技術
- ・IT ペアリング復興事業「カツオの自動選別機」
- ・魚、食肉等の X 線残骨検査における自動検出装置の開発
- ・ベビーホタテの自動ウロ取りロボットの開発
- ・IT ペアリング復興事業「福島県伊達地域“IT 桃”実現に向けた活動」
- ・分光イメージ技術の農産物品質管理への適用検討

② 連携企業様の事業紹介

a. タラの雌雄判別装置 (Smart Echo)

東社シーテック株式会社 代表取締役 本田 光正 氏

タラの雌雄判別装置は、誰にでも簡単に衛生を保ったままオスとメスを自動で判別する装置です。オスとメスの判別は、魚の腹部の超音波エコー画像を画像処理技術及び機械学習技術により判別します。現在、タラ以外の魚および半自動選別装置など水産業の未来を創生するという想いで開発に取り組んでいきます。

b. ワイヤレス温度計測システムの製品化 (TWINDS - T)

匠ソリューションズ株式会社 エキスパートエンジニア 浦本 久伸 氏

ダイキャストマシンや射出成形機などの金型内部温度をリアルタイムに計測し、ワイヤレス (WiFi) にて温度変化データを取得し、専用ソフトで分かりやすくグラフ表示をします。邪魔にならない機器設置、防水防塵、従来比半分という安価な温度計測 IoT センサーシステムとして提供可能な製品です。

(2) 事例2：「スリーアイズ事業紹介と、人工知能の事業活用のポイント」

株式会社スリーアイズ 代表取締役 牧之内 隆大 氏

株式会社スリーアイズは、本社が山形県米沢市にあるスタートアップベンチャーです。「面白く (Interesting)」「革新的 (Innovative)」「世界に通じる (International)」価値を、AI 技術を用いて実現し、企業や社会に貢献することを目指しています。

会社の核となる技術は、Cookie を使用せずに最適な広告をマッチングする技術と、自動認識、自動

抽出を可能にする AI 技術です。

AI 式アドネットワーク「CANDY」は、Cookie を使わずにコンテンツの解析を AI 技術にて行う Web 広告自動配信サービスで、幅広い広告対象に対し効率的に広告を提供できます。

また、AI 技術の積み重ねを生かして、AI 活用ビジネスの技術戦略コンサルタントや、AI 活用システムの設計開発支援なども手がけています。このようなサービスにて、東北での AI 普及率を高めて地域への貢献を実現してまいりたいと考えています。

(3) 事例3:「Society5.0に向けたIoT 共創基盤の必要性と真の官民協働に向けて」

仙台市 経済局 産業政策部 産業振興課長(当時) 白岩 靖氏 氏

Society 5.0の社会とはIoT、AI、ロボット等の革新的技術が、いつのまにか自分たちの暮らしや社会の仕組みに当たり前のよう存在することだと考えています。仙台市では経済成長戦略2023の概要を公表しました。その中で、Society 5.0を実現する「X-TECH イノベーション都市・仙台」とし、様々な分野に最先端テクノロジーを導入していく方針です。また、Society 5.0の実現には新しい産業の担い手、地域社会の担い手が必要であり、新たなビジネスの創出、起業家の支援にも力を入れています。

そして、4年後から稼働する東北放射光施設を最大限に生かしていきたい。IT 企業、未来を切り開く人材が集まり、イノベーションを生み出すには絶対不可欠な世界最先端の装置が揃います。Society 5.0の実現に向けた様々なトライ、実践、そして社会実装に仙台、東北がいち早く取り組むべきだと信じています。

3. 閉会挨拶

東北大学 産学連携機構 地域イノベーション推進部長 上島 敦 氏

今回のフォーラムでは、AI、IoT などの先端技術が、身近な産業にどのようなイノベーション起こしているのか、イノベーションの担い手である人材の育成について大学の使命が何であるのかを再認識させて頂きました。

今後、東北地方全般の大学と地域への AI、IoT 実装、社会への貢献を強く進めるべく、産学官金が今までの枠を超えて、より広い連携が重要であると考えています。

～アンケートでお寄せいただいた声～

- ・社会減少の抑制という課題に対して、産業経済の発展により交流人口の拡大を目指すための各種団体・企業の実例を知ることができ参考になりました。実例を参考に、私の住む地域では、こういったことが可能なのか、引き続き考えていきたいと思えます。 (30代、会社員)
- ・人口減、高齢化という社会的な課題に産学官連携で取り組んでいる事例、仕組みが興味深かった。AI、IoT 活用のためにどうすればよいか、より具体的に伺いたい。 (40代、会社員)
- ・色々な事例や紹介を聴講し、企業と大学がコラボし先進技術を開発し、色々な分野で効率化が図られている事や利便性向上に貢献されている事が参考になった。 (50代、会社員)
- ・今後、Society5.0の社会へ移行していくのは明らかで、その基礎情報を聞くことができた。IoT、AI についての最新動向も紹介していただきたい。 (60代、会社員)